研究領域の内容とテーマ

基盤領域

- キリスト教
- 英語
- 教育学
- 看護理論・看護学研究法（看護とデータサイエンス）
- 看護社会学
- 看護心理学
- 健康教育
- 生命倫理学・看護倫理学
- 看護情報学
- 看護疫学・統計学

看護専門領域

- 看護技術・基礎看護学
- 看護教育学
- 遺伝看護学
- ウィメンズヘルス
- 慢性期看護学／がん看護学・緩和ケア
- 老年看護学
- 急性期看護学
- 在宅看護学
- ニューロサイエンス看護学
- 看護管理学
- 小児看護学
- 助産学
- 精神看護学
- 公衆衛生看護学
- 国際看護学

基盤領域

キリスト教

キリスト教の精神に基づいて設立された本学では、すべての教育活動がキリスト教の価値観を前提としています。つまり、この世には意味があると認め、一人ひとりの人間が慈悲深い創造主である神のイメージをもって造られた存在と見なします。私たちは皆、理性、創造力、感受性、愛せる力を持たされているとともに、他人に仕えるという意味と目的のある生き方に招かれています。これは、性別、人種、地位、宗教に関係なく、すべての人の尊厳の根底であり、看護職を生み出した「隣人愛」の実践の活力でもあります。

上田 憲明 特命教授
UEDA Noriaki
Specially Appointed Professor

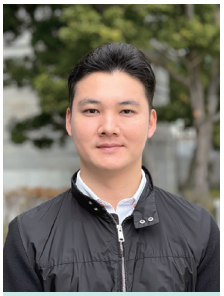
英語

看護英語教育における先駆的な取り組みを行っています。英語の各技能の基礎力を養う科目、模擬患者を活用し、医療・看護英語コミュニケーション力を育成する科目、教養と高い倫理観を涵養する人文学の基礎的な英語科目、そして看護学研究のためのアカデミックライティング力を養成する科目などを4年間にわたりバランスよく配置した新たなカリキュラムを特徴としています。さらに、獲得したコミュニケーションスキルと異文化理解能力を、本学のさまざまな海外研修プログラムで実際に使うことで、より高度な実践力を養成します。

井上 麻未 教授
INOUE Mami
Professor

教育学

本学の養護教諭養成のうち、教員養成および学問としての教育学の探究に携わります。学問としての教育学は、心理学、医学、法学、社会学、歴史学、哲学……と多様な基礎学問の応用領域として成立しています。またその対象として、学校教育のみならず、乳幼児から高齢者までの教育を幅広く含みます。私の場合、主に歴史学と社会学を基礎とした教育文化史の立場から、多様な学校教育の問題（友人関係、部活動等）、また生涯学習社会が抱える問題（趣味活動の位置づけ、成人教育等）について探究しています。



歌川 光一 准教授
UTAGAWA Koichi
Associate Professor

看護理論・看護学研究法（看護とデータサイエンス）

看護理論は、看護に関連した現象を記述し、予測し、説明することを目的としています。これまでにさまざまな理論が公表されてきました。日本の看護実践をよりよくするために、理論を分析し、新たな理論を一緒に考えてみませんか。患者に対してエビデンスに基づくケアを提供するためには、理論だけでなく、看護研究を理解し、さらなるエビデンスを構築する質の高い研究が求められています。当領域では、研究デザインについての理解を深め、エビデンスを構築する研究とは何かを考えていきます。

看護の臨床現場では、日々様々な健康情報が蓄積されています。こうしたデータを活用し、看護や医療の質を改善するための研究や看護の現場を変革するプロジェクトに一緒に取り組んでみませんか。リアルワールド・データは、看護現象をより豊かに、生き生きと照らし出す可能性を秘めていると言われています。看護とデータサイエンスでは、診療情報等のリアルワールド・データ等を用いて、看護を客観的に記述し、看護ケアの実態や課題を明らかにしていく研究に取り組みます。

奥山 絢子 教授
OKUYAMA Ayako
Professor

看護社会学

看護実践は患者や関連するさまざまな他者との社会的相互作用で成り立っており、そのダイナミズムを分析的に理解し、目的を持って関わることが重要であり、自身の判断と行動について内省的に理解することが求められます。こうした課題に最も関連するのは社会学の中のシンボリック相互作用論であり、そこに理論的基盤を置き、多様で複雑な経験を表現できる質的データを活用した研究展開が有効です。深い解釈力を身につけ理論モデル化ができるよう、主要な質的研究法について理論特性と方法を学びます。

木下 康仁 特命教授
KINOSHITA Yasuhito
Specially Appointed Professor

看護心理学

心理学は、“こころ”という直接見ることのできない対象を扱う学問です。看護心理学では、“こころ”の在り方をとらえる、あるいは測定するためのさまざまな手法を理解し、研究活動の基礎力を養うことが目標となります。また、人間の行動と心理的状態について理解することに関わる心理学の基礎概念を学び、それらを用いて看護の現場で出会う人々の心の在り方を科学的に洞察し、最終的に、看護実践において心理学の知識を踏まえた対処・支援を行うことができるようになることを目指します。

糟谷 知香江 教授
KASUYA Chikae
Professor

健康教育

自分のこころとからだを通して幸せを感じる生き方を創造する、それを実現するための智慧と行動力を育むことが健康教育の大切な使命であると感じています。私の研究室では、公教育の入口と出口にあたる、幼児と大学生を対象に、自律的に考える場、失敗を恐れずに挑戦できる場、仲間と体験や感動を共有できる場づくりを推し進めています。現在、幼児については「森のようちえん」、大学生については「冒険教育（自然体験活動）」や「専門性に立つ教養人を育てる教養教育」に強いこだわりをもって、実践活動と研究に取り組んでいます。

菊田 文夫 准教授
KIKUTA Fumio
Associate Professor

生命倫理学・看護倫理学

生命倫理学・看護倫理学領域では、生命科学とヘルスケアの領域における人間の行為を、道徳的価値と諸原則等に照らして、学際的および体系的に研究します。よき看護実践、よき看護専門家、よき人間とは？という問いへの応答から、本学のミッションを体現できる看護専門家を育てたいと思います。学部においては、系統だった推論や論理的な思考を育み、私たちが普段当たり前と思って受け入れていること（世界観）を見つめ直す営みを通して、自分の生き方や責任を自律的に考えます。

鶴若 麻理 教授
TSURUWAKA Mari
Professor

看護情報学

多様で複雑な健康・医療情報に翻弄されず、市民や患者が適切に意思決定し、生涯を通じて学び成長できるための支援を目的としています。そのために、健康問題やストレスに直面しても、社会の一員として、自らの目標を達成し、潜在的な力を成長させる力としてのヘルスリテラシー（的確に情報を入手、理解、評価、意思決定する力）について研究します。そこで必要となる、意思決定、ヘルスプロモーション、ヘルスコミュニケーション、健康社会学の理論と社会調査・統計学の知識とスキルを修得します。

中山 和弘 教授
NAKAYAMA Kazuhiro
Professor

看護疫学・統計学

本講座では、記述統計学および推測統計学の基礎を学び、保健統計指標や量的研究結果を正しく理解し、利用することができるようになることを目指します。統計学の基本的考え方をはじめ、仮説検定理論、P値、信頼区間、生存時間解析としてのカプランマイヤー法などを学びます。また、実際の研究論文を題材とし、講義と批判的吟味の実習を通して、ランダム化試験やその他疫学研究デザインの原理について理解を深めます。

八重 ゆかり 教授
YAJU Yukari
Professor

看護専門領域

基礎看護・看護技術学

基礎看護・看護技術学では、年代や健康課題に限らず、さまざまな看護現象をテーマに研究に取り組んでいます。患者にとって最適な看護とは何か、最適な看護はどのように実践させるべきなのか等、看護に共通した基礎的なテーマに取り組むことで、看護学の概念を豊かに醸成することを目指しています。人々の健康を守り高め、看護が何であるかを言語化し、看護の基礎的学問領域に資するために、研究を行っています。

佐居 由美 教授
SAKYO Yumi
Professor

ニューロサイエンス看護学

脳神経科学分野の研究を応用しながら、全人的に中枢神経系疾患患者の看護を追究する学問領域であり、脳卒中、頭部外傷、パーキンソン病などの神経変性疾患による意識・運動・感覚障害を持つ患者とその家族の看護を専門とします。科学研究を応用した先端技術の看護を追究する一方で、遷延性意識障害といった重症脳神経障害患者と家族に焦点を当て、生命倫理やアドボカシー、QOLの観点からも学び、高度な実践ができる看護師およびエビデンスを創生する研究者を育成します。

大久保 暢子 教授
OKUBO Nobuko
Professor

看護教育学

優れた実践力を持ち実践の場に軸足を置く教育者（クリニカル・ナースエデュケーター：CNE）と、優れた研究力を持ち教育の場に軸足を置く大学教員を未来の看護系大学教員として育成しています。ゼミでは、さまざまな文献を読み、経験を話し合い、変容的学習を体験します。また、看護専門職としての資質や能力をいかに育むかを探究し、その成果を学部教育や現任教育に活用しています。研究テーマは、ファカルティ・ディベロップメントや継続教育、看護師や看護学生の臨床判断能力開発など多岐にわたります。

小山田 恭子 教授
OYAMADA Kyoko
Professor

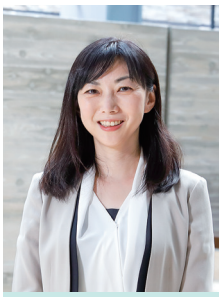
看護管理学

人々の健康や生活を支援するという看護の目的の達成に向けて、質の高い保健医療サービスの提供に必要な要素を、看護学の視点から探究します。具体的には、ヘルスケアに関わる社会の状況や制度・政策、人材育成、医療の質とその評価、課題解決へ向けた戦略的なマネジメント、意思決定における倫理的なリーダーシップなどについて学びます。複雑性を増す社会の中で、人々の多様な価値観やニーズの存在を理解し、多角的に課題を捉え解決に導くことができる、未来の看護リーダーを育成します。

奥　裕美 教授
OKU Hiromi
Professor

遺伝看護学

遺伝医療は親から子に伝わるという継承（heredity）だけでなく、多様性（variation）という視点が重要になります。「対象」「場」「時間」の多様性に富む中で、問題・課題に多角的に取り組む領域です。「遺伝」という視点をもって医療・社会を見つめ直すと、看護実践・研究はより深いものになります。高度な専門的知識・技能・研究能力を習得し、確かなエビデンスと豊かな感性をもって遺伝医療を探究します。



青木 美紀子 准教授
AOKI Mikiko
Associate Professor

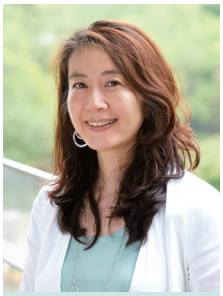
小児看護学

学部では、子どもを理解し、看護の役割を子どもと家族中心のケアを基盤に学びます。さらに、実習を通して子どもと家族との信頼関係を結ぶこと、健康問題を理解した上で一人ひとりの子どもとその家族を尊重したケア実践を行います。これらにより、小児看護の専門性を理解し、子どもと家族の力を育む看護を探究します。

小林 京子 教授
KOBAYASHI Kyoko
Professor

ウィメンズヘルス

女性の一生涯にわたる健康を追究する領域です。各ライフステージで起こりうる心身の変化を持ちながら、健康であり続けることを支援します。また、疾患や障がいと生殖の問題、それらに直面する女性とパートナー、子ども、コミュニティも看護の対象としています。性教育、家族計画、生殖看護など、リプロダクティブ・ヘルスにおける社会の要請に応える支援にも取り組んでいます。研究と実践を連動させ、ウィメンズヘルス看護に大きく貢献できる人材として、母性看護専門看護師（CNS）や研究者を育成します。



五十嵐 ゆかり 教授
IGARASHI Yukari
Professor

助産学

女性を中心に、パートナー、子ども、家族、コミュニティを対象とした助産ケアを追究します。妊娠・分娩・産褥・新生児期のマタニティ・サイクルにおける助産ケアの質向上を目指すほか、性暴力被害者支援、ペリネイタル・ロスへの支援など社会の片隅に追いやられている課題にも取り組んでいます。国際母子保健に関する研究や、助産管理、助産教育に関する研究も行っています。エビデンスを<創る><使える>人材を育成します。

堀内 成子 特命教授
HORIUCHI Shigeko
Specially Appointed Professor

片岡 弥恵子 教授
KATAOKA Yaeko
Professor

慢性期看護学

慢性長期的な経過を辿る疾患とともに生きる患者とその家族の特徴の理解、さまざまな療養過程と各期における看護介入など、慢性期看護に必須の概念・理論を学び実践方法を探究しています。演習では聖路加国際病院をはじめ各専門病院、大学病院における臨床実践を通じて、実践に適用可能なモデルの開発を目指します。

がん看護学・緩和ケア

多岐にわたる治療を受けるさまざまな病期のがん患者とその家族の特徴の理解、また苦痛症状のある患者に対する看護介入など、がん看護や緩和ケアにまつわる概念・理論と実践方法を探究しています。上級実践コースでは聖路加国際病院ならびにがん専門病院等における実習や、臨床の第一線で活躍するがん看護専門看護師による直接指導のもと、より高度な看護実践能力を育成します。

林 直子 教授
HAYASHI Naoko
Professor

老年看護学

虚弱、認知症、慢性疾患などを持つ高齢者とその家族を対象としたPeople-Centered Careや看護過程、ヘルスプロモーション支援などについて探究します。

亀井 智子 教授
KAMEI Tomoko
Professor

精神看護学

人々のこころの健康（メンタルヘルス）の支援や、精神疾患をもって生活される方・ご家族へのケアを探究する領域です。ケア対象者の持つ強みに注目し、その人らしい回復と生活に寄り添う支援を共に考えます。専門職や市民に対するメンタルヘルス支援、精神科訪問看護の普及や質の向上、対象者との共同意思決定などの研究活動や、聖路加国際病院訪問看護ステーションからの精神科訪問看護の臨床活動も行っています。

瀬戸屋 希 教授
SETOYA Nozomi
Professor

急性期看護学

急性期の対象と家族のQOLの維持・向上を目指し、早期回復とその人らしい望ましい生活の獲得への看護を探究します。修士論文コースでは急性期のみならず、健康支援に必要な理論やエビデンスの理解を深め、急性期の健康課題に対する高い研究能力の獲得を目指します。上級実践コースでは、急性期の対象に高度な看護実践を行い、QOLを高める看護実践能力の獲得を目指します。博士後期課程では、健康各期の連続性を見据え、急性期の健康課題への新たな看護支援方法の開発を行っていきます。

吉田 俊子 教授
YOSHIDA Toshiko
Professor

公衆衛生看護学

公衆衛生看護学は、社会や組織・集団に働きかけ、個人や家族への支援と社会・組織・集団への支援が連動するところに特徴があります。行政・産業・学校・その他の公衆衛生看護領域における人々の健康、および保健・医療・福祉システムに関する諸課題について、さまざまな視点から捉え、対応するための、またよりよい実践のための方法論を探究・創造していきます。自立・自律した実践力と研究能力の修得を目指します。

麻原 きよみ 教授
ASAHARA Kiyomi
Professor

在宅看護学

人々の暮らしに軸足を置いた看護を総じて在宅看護と捉えています。訪問看護をはじめとして、病院の外来や病棟の退院支援、さらには高齢者や障害者施設等での看護も含めて在宅看護であると考えています。病気は地域で予防し治すもの、人々は支え合いながら暮らすものという地域包括ケアの考えに基づいた看護の役割を学んでいきましょう。ポイントは対象者と対話する力とチーム力です。

山田 雅子 教授
YAMADA Masako
Professor

国際看護学

世界の人々のよりよい健康維持・改善のために、グローバルヘルスの課題を学び、看護職者として、科学的根拠に基づく研究や活動を行います。イリノイ大学の総合実習、フィリピンなどの海外へのフィールドワークなどを通して、看護職としてグローバルヘルスの課題に対して貢献するための活動を行います。英語で卒業論文を書くこともできます。将来、WHOなどの国際機関や政府機関、NGO、JICA、アカデミアなどで活躍するグローバルヘルスリーダーを育成します。

大田 えりか 教授
OTA Erika
Professor